

2021年度活動実施報告

(1) 本研究所主催事業

令和2年度研究成果報告会

サステナビリティ研究所と地域イノベーション研究センターの研究者による令和2年度研究成果報告会を共同開催しました。

記

日時：2021年7月6日（火）13時30分～16時15分

開催形式：Webex Eventsを使用したオンラインによるライブ配信

参加者：47名

テーマ：持続可能な社会に向けて〈サステナビリティ研究所〉

塵簀豨 び 今爽遵土8

小学生向けSDGs研修会をオンラインで開催しました

日 時：令和3年8月17日（火）

かいけ心正こども園では「じぶんごとぶろじえくと」としてSDGs推進活動を行っています。

この度、本学のSDGsの取り組みを進めるサステナビリティ研究所へ、かいけ心正こども園からの依頼があり、研修会の開催に至ったものです。今回、本学で活動する環境サークル「TUES地球環境を考える会（以下、考える会）」のメンバーが、かいけ心正こども園の学童保育に通う小学生1～4年生へ向けにSDGsを楽しく学ぶことを目的に、オンラインでSDGsとは何かを、説明しました。

まずワークシートを用い、SDGsの17のゴールから3つのゴール「14．海の豊かさを守ろう」「4．質の高い教育をみんなに」「15．陸の豊かさを守ろう」について、「どうしてプラスチックが減らないのだろう?」、「世界で教育を受けずに大人になる人は大体何人に一人?」、「日本にはどんな絶滅危惧種が生息していますか?」といった質問を交えながら、それぞれのテーマに沿って説明を行いました。その後、自分ごとと捉えてもらうために、各ゴールの達成に向けて自分たちにできることは何か、一緒に考えました。小学生たちは考える会のメンバーとやり取りを交えながら、自分たちで考え、積極的に答える姿がありました。その後、各ゴールはそれぞれ繋がっていること、自分たちができることはないか、常に考えることがゴールへ近づくことを考える会のメンバーから説明し、終了しました。

終了後、小学生たちの様子を見ていただいた学童保育の指導員の先生からは「学年の幅があり、説明も難しかった中、学生さんたちとのやり取りの中で、子供たちも熱心にSDGsを学んでいた。いい取り組みになった。」との感想をいただきました。



【オンラインでの研修会の様子】

S D G s 地域塾～放棄竹林の整備と竹炭の商品化に関する意見交換～

日 時：令和3年10月11日 15:00-16:15

参加者：細田商店細田社長、環境学部3年生3名、環境学部山口創講師

SDGs地域塾～鳥取市佐治地域の現状や課題、今後の活動について～

日 時：令和3年10月18日

概 要：環境学部の甲田ゼミが五しの里さじ地域協議会の方と、鳥取市佐治地域の現状や課題、今後の活動についてのSDGs地域塾を実施しました。五しの里さじ地域協議会の藤原会長から、五しの里さじ地域協議会の取り組みや、佐治地域の現状などについて、コロナ禍での佐治町における農村・農泊体験の現状などとも合わせて、ご説明いただきました。その後、ゼミ生が3つのグループに分かれ、それぞれのグループと会長で活発な質疑応答を行い、ゼミ生と五しの里さじ地域協議会との今後の活動についても話し合いました。

今後は、今回SDGs地域塾で議論されたことをもとに、五しの里さじ地域協議会の活動内容をSDGsの観点から再考察するためのゼミ生と五しの里さじ地域協議会とのワークショップを実施する予定です。



【講演の様子】



【グループごとに分かれた質疑応答・意見交換の様子】

SDGsカフェの実施

SDGsカフェは、気軽に語り合えるカフェ形式で、設定したテーマについて参加者が自由に意見交換する場です。学生主体で企画・運営し、以下のとおり実施しました。

(1)“ETHICAL”に食を楽しもう

日 時：令和3年11月11日（木）

参加者：14名

概 要：「SDGsカフェオンラインイベント～“ETHICAL”に食を楽しもう」を開催し一般からのゲスト参加者3名と本学の学生11名が参加しました。

今回は「フードロス」をテーマとして、ETHICALな食の実態を知ることがを目的に、（本学の卒業生で）長野県の織座農園で活躍されている高木朝香さんと、同じく本学卒業生で卒業論文でフードロスを研究した吉田真優さんに講師として登壇いただき、有機農業の実践と食料廃棄を減らす取り組みを講演していただきました。

本イベントは環境学部3年生の山本竜維さんが企画をし、司会進行も行いました。その中で、まず高木さんからは有機農業を志すきっかけや問題となっている農薬について、現在働いている織座農園が目指す有機農業のありかたについて講演をしていただきました。次に、吉田さんからは様々な人が様々な時間で利用するコンビニエンスストアチェーンが抱える食料廃棄に関する問題点と吉田さん自身が経験した食に対する思い、そしてその思いを伝えることの重要性を講演していただきました。その後、参加者と講師と熱心な質疑応答を交え、ETHICAL（エシカル）＝倫理的、道徳的な消費、食を楽しむこととは何かを考える良い機会となりました。



【オンラインイベントの様子】

(2) 甘いバナナの苦い現実

日 時：令和3年11月22日（月）

参加者：7名

概 要：本学のまちかキャンパスでSDGsカフェ「甘いバナナの苦い現実」視聴会を開催し、本学の学生7名が参加しました。

今回は身近な果物である「バナナ」の生産現場の課題を映画の上映を通し、持続可能な開発とは何かを考えることを目的に、環境学部3年生の筈川慶司さんが企画し、司会進行も行いました。

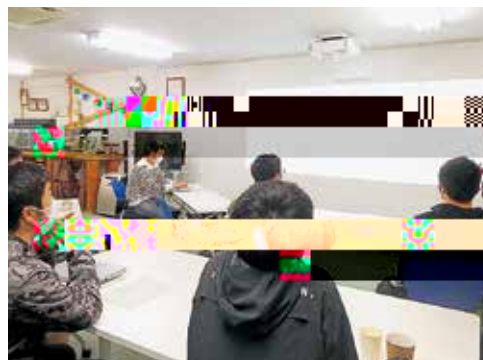
まず、参加者にフィリピン産を中心に購入してきた色々な企業のバナナを普段スーパーで購入する感覚で1本ずつ選んでもらい試食をしました。次に、ドキュメンタリー映画「甘いバナナの苦い現実」の3部構成の一つを見終わるたびにバナナを1本ずつ選び、試食を行い、参加者に意識の変化を感じてもらいました。その後、参加者全員によるディスカッションを行いました。

参加者からは「農園と海外の大企業との不平等な契約という不幸な結果を生まないためにも教育が必要なのだと思う」という感想や「原種に近いバナナであるバランゴン種を残すことによって遺伝病による損害を受けることを防ぐことができるのではないか」という意見もありました。また、価格の安いバナナを手に入れることができる背景を知ることにより、我々のできることは何か、現実を知ることの重要性など活発な意見を交わしました。

海外の商品が日本で安く手に入る理由を知ること、考えること、そして行動していくことの重要性を考えるきっかけとなったイベントとなりました。



【バナナを選ぶ参加者】



(3)「もったいないキッチン」見る・知る・考える

日 時：令和3年12月4日(土)

参加者：15名

概 要：令和3年12月4日(土)、本学の100講義室で『SDGsカフェ「もったいないキッチン」見る・知る・考える』を開催し、一般参加者3名と本学の学生12名が参加しました。

今回SDGsカフェは「フードロス」の課題について、映画の視聴(見る・知る)を通し考えることを目的に、環境学部3年生の山本 竜維さんが企画し、司会進行も行いました。まず、映画「もったいないキッチン」を上映し、上映後には参加者同士でペアを組み、感想や意見を出し合い、ワークショップを行いました。

映画視聴やその後のワークショップを通して、日本の食品ロスの量の認知向上などの重要性や消費者、生産者、販売者の三者それぞれの背景を知ることにより、身近な「フードロス」に対して我々のできることは何か、知ることの大切さ、そして何より食を楽しむことの大切さを考えるきっかけとなりました。



【「もったいないキッチン」上映の様子】



【ディスカッションの様子】

「SDGs基礎」特別講義～「SDGsと社会的共通資本を考える」～

日時：令和3年12月4日（土）10：30～12：00

参加者： 約264人

概要：この「SDGs基礎」の講義は、SDGsの理念や目標の基礎となる学問領域を知り、SDGsの達成に向けた取り組みを多角的にとらえることを目的とした、オムニバス形式の講義です。

本学100、200講義室にて宇沢国際学館代表取締役で内科医の占部 まり氏による「SDGs基礎」特別講義を開催しました。「SDGsと社会的共通資本を考える」というテーマで、本学の学生264名と占部氏との質疑応答を交えながら講義を進めました。

占部氏は、鳥取県米子市出身でノーベル経済学賞に最も近いと称された高名な経済学者の故・宇沢 弘文氏の長女で、宇沢氏が提唱した社会的共通資本と地域医療の課題に関する研究・講演活動をされています。

まず経済学者として有名な宇沢氏について、次に宇沢氏が数学から経済学に移り、社会問題や地球環境問題への解決への研究に取り組んだ背景や環境に対し提言した比例型脱炭素税についてお話していただきました。また持続可能な開発目標（SDGs）と関連づけながら社会的共通資本とは何かを説明いただきました。更に内科医として今後医療教育を次世代にどう繋げていくのかについてもお話ししていただきました。最後に、経済は人間の心があって初めて動き出すもの、経済は人々を豊かにする手段でしかないということを宇沢氏の名言とともに語り、講義を終えられました。

講義を受けた学生からは、様々な視点から物事をとらえることの重要性や人と人とのつながりを構築することがとても重要であることに気づかされたなど、宇沢氏の考えや占部氏のメッセージからたくさんの気づきがあったとの感想が聞かれました。

この特別講義は本学のSDGsの取組みの一環としてサステナビリティ研究所が主催しました。



【講師 占部 まり氏】



【聴講する学生たち】

「環境政策論」特別講義 ～「気候危機のリスクと社会の大転換」

日 時：令和4年1月24日（月）

参加者：一般の参加者10名と本学の学生93名

概 要：この講義は本研究所が主催し、国立環境研究所地球環境研究センター 副センター長江守 正多 氏を特別講師としてお迎えし、「SDGsの観点から（3）」と題して、気候変動をSDGsの観点から捉え、環境政策を再考察することを目的とした特別講義を行いました。

江守氏は2018年から現職になられ、社会対話・協働推進オフィス（Twitter @taiwa_kankyo）代表、専門は地球温暖化の将来予測とリスク論でIPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次及び第6次評価報告書の主執筆者でもあります。

国立環境研究所 地球システム領域 副領域長 江守 正多 氏による「環境政策論」特別講義をオンライン開催しました。「気候危機のリスクと社会の大転換」というテーマで、一般の参加者10名と本学の学生93名とで質疑応答を交えながら講義を開催しました。

江守氏は2021年より現職。東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 客員教授。

専門は地球温暖化の将来予測とリスク論でIPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次及び第6次評価報告書の主執筆者でもあります。

講義では、世界の平均気温上昇の原因は人為要因が多くを占めることは疑いの余地がないこと、このまま温室効果ガス排出量を減らす対策をしなければ、将来の世代や発展途上国の人たちに深刻な被害をもたらすこと、環境倫理の観点から日本人の脱炭素への価値観の大転換を起こすことが地球の平均気温を1.5 までの上昇に抑える努力につながることを、といったお話をいただきました。

講義後寄せられたアンケートには「気候変動で特に影響を受ける人たちのことを自分事として考える感受性を高く持つことを忘れずにいたい」「自分たちが小さくコツコツと対策を重ねていくのは意味がないのでは、と最近考えていたが、今回江守先生の講義で“3.5%ルール”という言葉を知り、自分がやっていることは無駄ではないし、これからも続けていこうと思えた」といった感想をいただきました。



【講義の一場面(オンライン)】

SDGsカフェ拡大版の実施～ガクチカスタートアップセミナーやったもん勝ち!!～

日時：令和4年1月27日（木）

参加者：25名

概要：「SDGsカフェ拡大版オンラインイベント～【ガクチカスタートアップセミナー やったもん勝ち!!】」を開催し、一般からのゲスト講師3名と本学の学生13名他、合計25名が参加しました。

今回は、「ガクチカ」をテーマとして、やってみたい！を地域で実践することでキャリアをデザインし、就活時のガクチカの強みにしてもらうことを目的に、SDGsカフェ拡大版として開催しました。ゲスト講師は本学卒業生で今年度より鳥取県栽培漁業センター研究員として活躍されている武坂 亮さんと地元大山町地域おこし研究員として活動している松浦 生さん、鳥取県県民参画協働課の酒嶋 俊介係長に講師としてお話しいただきました。武坂さんからは鳥取市生山での「稲葉プロジェクト」で地域貢献活動をし、地域の人と時間を経て打ち解けたお話を、松浦さんからは用瀬で体験型インターンシップ「もちがせ週末住人」を起業し、試行錯誤した経験などを話していただきました。また酒嶋さんからは行政の取組や地域貢献、SDGsの活動を助成する鳥取県の補助金・助成金の活用方法や申請についての説明をしていただきました。

「ガクチカ」とは “ 学生時代頑張ったこと・学生時代に力を入れたこと ” の略称でいわゆる「就活用語」の一つ。エントリーシート及び面接で頻出の質問。

参加した学生からも活発に意見や質問が多くあり、トークセッションは盛り上がりました。大学生活だけでは出会えない人々と繋がりを持ち、色々な経験から様々なことを学び体験することの大切さを知り、またこれから活動するための手段と勇気をもることができたとても素晴らしい良い機会となりました。



【オンラインイベントの様子】

鳥取の生き物をもっと知ろう！～地域の生物多様性を考える～

日 時：令和4年3月5日（土）

参加者：26名

概 要：本学のサステナビリティ研究所でSDGsカフェオンライン「鳥取の生き物をもっと知ろう～地域の生物多様性を考える～」を開催し、26名が参加しました。

今回は「鳥取県生物多様性地域戦略」をテーマとして、生物多様性の価値や重要性和県内で行われている保全活動の認知度を高めることを目的に、環境学部3年生の筈川慶司さんが企画しました。

講師として、余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会 谷上 正樹 氏、一般社団法人鳥取県地域教育推進局環境部 小宮 春平 氏、もりまきフィールドネットワーク 桐原 真希 氏、環境学部 小林 朋道教授の4名がそれぞれのテーマに沿って講演しました。

参加者からは、「生息地に立ち入る際に、靴底や衣服に付着する外来生物の対策などを取られていますか？」「ため池の多くを無くそうとしていることに大変驚きました。山陰側の雨が少なくなる可能性が高いと言われていますが」、「生き物センサーを鳥取県全体の文化遺産にしていくなめにはどんなことが出来るのでしょうか？」など質問や感想が寄せられるなど活発な意見を交わしました。

地域の生物多様性保全活動の重要性について、生物に精通するガイドの人材不足の現状と今後の人材育成が重要であるとともに、地域に特有な生物の魅力を再発見し、地域資源として利用するという生物保全と地域経済の両立がこれからの生物保全の課題解決の一つの手法であるということを知るきっかけとなったイベントとなりました。



【オンラインイベントの様子】

(2) 2021(令和3)年度SDGs事業



第18回環大コンペの表彰式開催(令和4年2月)

環大コンペとは公立鳥取環境大学を支援する会が主催するイベントで、大学生生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画(団体)を表彰し副賞を授与するもの。第18回環大コンペは「公立鳥取環境大学生の鳥取創生～環大生による社会実践・研究・地域活性化～」をテーマに行われました。表彰式は、本学で開催し、表彰式後には参加学生から今回のコンペに対する熱い思いや、よりコンペを盛り上げるための改善策など盛んに意見交換が行われました。なお、学生のコーディネート役を、サステナビリティ研究所 中尾悠利子 副所長が務め、応募のあった企画には、SDGsの視点等の良いアイデアが盛り込まれました。

入賞タイトル

- 【第1位】あずプロ～地域の学生と企業で鳥取を元気にするプロジェクト～
- 【第2位】地域密着型買い物代行サービスについて
- 【第3位】鳥取県東部動物事故啓発活動について
- 【奨励賞・企画賞】学生コーディネーター活動による人材育成と発掘
- 【奨励賞・アイデア賞】エシカル教育のためのプログラム開発
- 【奨励賞・探求賞】鳥取県東部における溜池環境の保全と新たな保全活動の模索



鳥取商工会議所工業部会とのSDGs連携事業

SDGsの取り組み推進を目的に鳥取商工会議所工業部会と本学の教員及び学生が連携し、工業部会員企業の環境分野における課題解決に取り組んでいます。この課題解決を通じて、本学ではSDGsの目標達成並びに学生の成長を目指します。この連携事業は、SDGs推進組織であるサステナビリティ研究所が主導しています。

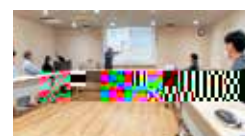
(1) (株)松田安鐵工の鑄物砂等の課題解決

鑄物製造には、排出される鑄物砂等とその処分費用の課題があります。令和3年9月、環境学部 金相烈 教授とそのゼミ生が同社を訪問し、製造工程で排出される鑄物砂等（生砂（生土を造型したものをばらした砂）、炭酸砂（炭酸ガスで造型したものをバラした砂）、鉄砂（鑄物をグラインダーで研磨等した後の周辺の砂）、耐火物くず砂等）を採取しました（サンプリング）。「鑄物砂等の環境影響評価等」の研究を進めています。12月、金ゼミが同社を再度訪問し、サンプリングした鑄物砂等の分析結果をより精度の高い内容とするために、ヒアリング及び鑄物砂等の再サンプリングを行いました。



(2) マルサンアイ鳥取(株)の豆乳おからの課題解決

豆乳製造には、おからの排出及びその処理の課題がある。令和3年9月、金ゼミが同社を訪問し、おからを乾燥させて処理するフロー、環境負荷（燃料、電力）経費（燃費費、電気代）、おからを飼料として処理する場合の現状の搬出先と距離並びに輸送における環境負荷（燃料費）等のヒアリングを実施しました。「おからの有効利用等」の研究を進めています。10月、環境学部 門木秀幸 准教授（サステナビリティ研究所研究員）とそのゼミ生が同社を訪問し、（一財）日本きのこセンター菌茸研究所及び（公財）鳥取県産業振興機構と情報交換会を実施しました。令和4年2月、門木ゼミがオンラインで同社の他、(株)さんれいフーズ、菌茸研究所、鳥取短期大学、鳥取県西部総合事務所、鳥取商工会議所、産業振興機構とおから有効利用に関する研究会（略称：おか研）を開催しました。



(3) 菌興椎茸協同組合の発泡スチロールフタの課題解決

椎茸種菌（椎茸の形成菌等を固めたもの）には、そのフタに発泡スチロールが使われており、栽培地で発泡スチロールがゴミとして散乱し、やがてマイクロプラスチックの問題につながる恐れがあります。金ゼミ生及び門木ゼミ生が「発泡スチロールに代わる生分解性材料のフタを探す」研究を進めています。金ゼミは、発泡スチロール素材と代替フタ素材の紫外線の影響についての試験を実施。門木ゼミは、令和3年5月、キャンパス内で原木しいたけの栽培実験を開始し12月に椎茸の発生を確認しました。11月、同組合の製造工場を訪問し、中間報告と椎茸種菌の生産機械を確認しました。同月、大阪のプラスチック会社を訪問し、代替フタの生産に関して打合せを実施しました。



(4) 令和3年度報告会(令和4年2月)

令和3年度の事業総括として進捗状況及び成果等を広く共有するために報告会を開催。

会場：鳥取商工会議所大会議室 会場参加者を限定し、YouTubeライブ配信実施。

概要：挨拶、事業概要説明、

令和3年度取組報告

松田安鐵工 - 発表者：金ゼミ

マルサンアイ鳥取 - 発表者：金ゼミ、門木ゼミ

菌興椎茸協同組合 - 発表者：金ゼミ、門木ゼミ

à

令和4年度取組

于適...以い 辨象企鑿英巨洋テクノソ工替血° 變霍 ミî 番

à 蛭提者：互癱斃 耗 鳥鴉 炎とずのゼミ英

5をず 霍炸广 憂間 虻 著 ユ尤棧土 束 恩 う岷憐遵遊り イ椅 四翠 請翠躡憐榻浸另例

心翁 駿びずの斃熄惱 び 戮処 予 血初 ¥ ルテ 血等の獅 伽 t 麓会の発 及録する 商薦尸城と老薦説